

算数科調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px;"> ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○日常の事象を数理的に処理する技能が身に付くように、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><数学的活動を充実させるための工夫></p> <p>○数量や図形を見だし、進んで関わる活動ができるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○日常の事象か見いだした問題を解決する活動ができるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○数学の学習場面から見いだした問題を解決する活動ができるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○数学的に表現し伝え合う活動ができるように、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○挿絵・写真・図表等などの扱いに、どのような特色が見られるか。</p> <p>○統計資料など学習効果を高めるために、どのような特色が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○見やすいレイアウトや読みやすい表現にするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○記号、用語、単位などの表現には、どのような特色が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい算数</h1>	2 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">東 書</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <p>○数学的な見方・考え方を働かせ、既習と当該の学習をつなぐための補助発問や吹き出しを設定することで、分かりやすく丁寧な問題解決の学習展開になるよう工夫されている。各単元の練習問題と対応した補充問題が難易度別に2種類用意されており、個別最適化された学びに活用することができる構成になっている。復習ページでは、つまづきが多い問題を厳選し、習熟度を維持、向上させることができるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○図や式に表す学習活動が取り入れられており、思考し表現できる工夫がされている。問題を解決した後、さらに発展的に考え理解を深めたり、数学的な見方・考え方の価値を再確認したりするための補助発問が設定されている。問題解決の過程を振り返り、新たな課題を見出し、解決の計画を立てて実行するページが新設されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○算数の有用性や学習の楽しさを実感しながら主体的に学習に取り組むことができるよう、学校や日常生活との関連を重視した場面設定や活動が取り入れられている。巻頭の「私と算数」では、著名人が算数と日常のつながりを説き、算数の身近さや有用性が実感できるように工夫されている。また、よりよく問題解決する姿を例示し、その態度や力を身に付けられるように工夫されている。</p> <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <p>○既習を生かして考えることを促進する場面で、吹き出し「同じように考えると」が新設されている。まとめの後に、新たな課題を見だし、さらに追究していく展開が設定されている。</p> <p>○単元の導入「単元プロローグ」では、日常生活の場面を取り上げ、学習動機を明確にした上で問題解決ができるように工夫されている。単元末「いかしてみよう」では、算数の有用性や楽しさを実感できるように、学んだことを活用できる場面を設定している。</p> <p>○まとめの後に「それなら」を提示することで、学習したことをもとに発展的に考え、数学的活動が連続していくように工夫されている。</p> <p>○巻頭の「学びのとびら」において対話的な問題解決の方法が記載されている。また、対話を通してそれぞれの考え方を伝え合う構成になっている。</p>	
資 料	<p>○綴じ込み教材は、厚みのある用紙を採用し、児童が操作しやすいように工夫されている。</p> <p>○個人の属性や価値を尊重し、性別・服装・人種のバランスが配慮されている。</p> <p>○単元導入前に学習動機を創出するオープニングムービー等が見られる QR コードが掲載されている。また、プログラミング的思考について取り組めるページが設けられている。</p> <p>○全学年に数学的活動に使う資料が設けられており、切り取り用教具には、ミシン目が入っている。</p>	
表記・表現	<p>○すべての文章で文節改行をしており、文意がつかみやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○問題やまとめなどの重要事項は枠で囲んで強調して記されている。</p> <p>○ページ番号を白抜き処理し、他の数と区別しやすく記されている。</p> <p>○UD 教科書体を用いて従来より文字を太くして視認性を向上するように工夫されている。</p> <p>○カラーUD の観点から、イラスト、写真、図などについて視認性に配慮がされている。</p>	
総 括	<p>○単元前半は吹き出しや補助発問等を丁寧に設定し、後半は吹き出し等を段階的に減少させることで、身に付けた資質・能力を駆使して高めることができるよう工夫されている。児童が考えることを重視し、丁寧さを継承しつつ、紙面のシンプル化も図っている。</p> <p>○数学的に考える資質・能力を育成するために、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を基盤とした単元構成になっている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">たのしい算数</h1>	4 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大日本</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <p>○毎時の適用問題が掲載され、巻末補充問題が全単元にわたって設定されており、時間調整や習熟度別学習に対応しやすい構成になっている。また、単元末の「たしかめ問題」には「しっかりチェック」を設け、習熟度別指導などの個に応じた指導の際に活用できるように工夫されている。リンクマークやインデックス、索引等により、既習事項を振り返りながら学習を進めやすくなるよう工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○問題解決の流れを具体的に提示したり、答えや考え方の一部を見せずに児童たちの気付きを促す場面を設けたりしている。本時のまとめでは、考え方に焦点をあてた「発見！考え方」が掲載されている。様々な場面で使える数学的な見方・考え方を巻頭に掲載し、学習を進める中でこれまでの考え方と統合することができるように工夫されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○単元の導入などで、児童自身が問題や疑問を見だし、主体的に学習に取り組めるように題材が工夫されている。巻頭の「算数の学び方」では、学習の進め方を算数の問題解決の流れとしてサイクル状に示し、生活や他教科に学習を生かす様子が掲載されている。「ふくろう先生になるほど算数教室」では、興味・関心を高めたり、算数が社会で生かされていることを実感したりできるように工夫されている。</p> <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <p>○数学的な見方・考え方が「ひらめきアイテム」によって示されている。数学的な見方・考え方を活用しながら数学的活動に取り組み、考える楽しさが感じられるように工夫されている。</p> <p>○児童自らがめあてを導くことができるよう、めあての前に吹き出しが設けられている。「学んだことを生かそう」では、学習したことを他の問題や身の回りの生活などに生かす問題が設定されている。</p> <p>○前時との相違点や問題解決後の疑問を吹き出しで示すことで、問題を見だし、新たな数学的活動が展開できるように工夫されている。</p> <p>○巻頭の『『たのしい算数』の使い方』に「考えや話し合いのれい」が記載されている。また、「話し合いながら学ぼう」には、対話的な学びの方法が例示されている。</p>	
資 料	<p>○環境に配慮した紙と植物インキを使い、光媒体を利用した抗菌・処理がされている。</p> <p>○キャラクターに外国にルーツをもつ児童や車椅子に乗っている人を入れている。</p> <p>○無料のデジタルコンテンツが用意されており、対応するページにQRコードが掲載されている。また、プログラミング的思考について取り組めるページが設けられている。</p> <p>○全学年に、数学的活動に使う資料が設けられており、切り取り用教具は扱いやすいように厚手の紙でミシン目が入っている。</p>	
表記・表現	<p>○すべての文章で文節改行をしており、文意がつかみやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○児童が見いだすこと、先生が教えることを赤枠と青枠で区別されている。</p> <p>○ページ番号は太い書体で枠囲みをするとともに、判別しやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○UD フォントを使用し、デジタル教科書でも読みやすい配慮がされている。</p> <p>○カラーUD の観点から、色覚の特性によらず視認できるよう配色が配慮されている。</p>	
総 括	<p>○主体的・対話的で深い学びを実現するため、具体的で丁寧な紙面構成となるよう工夫されている。巻頭に数学的な見方・考え方を示し、思考力、判断力、表現力等を伸ばすことができるような工夫がされている。</p> <p>○毎時の適用問題を設けるとともに、単元末の「たしかめ問題」を工夫することで知識・技能の確実な習得を目指す構成になっている。</p>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">みんなと学ぶ 小学校 算数</h1>	<div style="text-align: center;">1 1</div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">学 図</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○代表的な数学的な見方・考え方を「考え方モンスター」として巻頭に提示し、それを本文中に示すことで、児童が自然に活用できるように配慮されている。児童がつまづきやすい内容を扱う際は、知識・技能を身に付けられるように段階的に理解できるように工夫されている。巻末問題に「もっと算数」を設けて、補充的・発展的に課題に取り組むことができるように構成されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「前学年で見つけた見方・考え方」を巻頭に掲載し、活用した数学的な見方・考え方がどのような場面で扱われたかを振り返ることができるように工夫されている。また、言葉での説明、ブロックや図、表を使った説明などの活動を取り入れ、表現力を育めるよう工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元導入では、児童の視点に立った日常に潜む疑問を取り上げることで、主体的に取り組めるように工夫されている。児童の疑問が展開途中に記載されているため、授業の流れに連続性が生まれ、児童が主体となって問題解決的な学習ができるように工夫されている。単元末には、学習を通して解決できたことをまとめたり、新たな疑問から学習の系統性を実感させたりするように工夫されている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学的な見方・考え方の具体例が「考え方モンスター」で示されている。活用場面を例示することで、児童が意識して数学的な見方・考え方を活用できるように工夫されている。 ○単元の導入「はてなを発見」では、日常生活など身近な場面での疑問を取り上げ、生活との関連を意識しながら問題を解決できるように工夫されている。「まなびをいかそう」では、学んだ知識を生きた知識として活用できるような問題が設定されている。 ○「つながりの？」や「つなげたいな」を提示することで、自ら問題を見だし、新たな数学的活動が展開できるように工夫されている。 ○巻頭には前学年、巻末には該当学年で見つけた数学的な見方・考え方が記載されている。また、単元末には、対話を通して考え方を深める工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○AB版を採用し、開きやすく作業や書き込みなどがしやすい製本になっている。 ○男女のイメージを固定化せず、人権に対し差別を助長しないよう配慮されている。 ○QRコードには、活動に応じたマークがあり、内容が分かりやすいように、配慮されている。また、プログラミング的思考について取り組めるページが設けられている。 ○全学年に、数学的活動に使う資料が設けられており、切り取り用教具は扱いやすいように厚手の紙でミシン目が入っている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文節改行にすることで読み取りやすく、問題解決に重点をおけるよう配慮されている。 ○公式、算数の用語、重要事項などは囲みや色付けで強調されている。 ○UDフォントを使用することで、読みやすい文字になるように工夫されている。 ○カラーUDの観点を取り入れ、目に優しく判別のしやすいように色使いが工夫されている。 ○提示資料では色名を入れたり、形を変えたりする等、区別できるように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○生活や学習の中から自分たちで問題や疑問を発見し、学んだ知識・技能を確認・活用する中で、さらに新たな問いを提示していくなど、児童に寄り添った展開が工夫されている。学びの連続性を感じながら主体的・対話的に学習を進められる構成になっている。 ○児童の問いが次の学びにつながる場面では、児童の問いを吹き出しの形で示し、次の学びへの関心・意欲を高めるように工夫されている。 	

書名 項目	<h1>小学算数</h1>	17 教 出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「算数で使いたい見方・考え方」を巻頭に掲載し、繰り返し参照しながら学習できるように構成されている。巻末の練習問題には、「きほんの問題」と「ジャンプ問題」を設定し、習熟度に応じて練習問題の量を調整できるように配慮されている。各単元末には、典型的な誤答が見られる問題にマークをつけて意識化を図り、「考えるヒント」を掲載することで、問題解決のきっかけをつかめるよう工夫がされている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の前半で見いだした数学的な見方・考え方を顕在化し、後半で活用する場面を設けている。単元末の「4コマ漫画」で、学んだことのよさや見方・考え方を楽しく振り返ることができるよう工夫されている。「4コマ漫画」を通して領域を貫く数学的な見方・考え方を心に残るようにし、学年を超えて、問題解決に生かせるように構成している。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「授業開き教材」を設け、新学年の始めに、問題解決の楽しさを味わいながら学習の進め方や学ぶ態度を学級で共有できるように工夫されている。また、問題発見力・問題解決力・問題追求力の3つの力に焦点をあてたモデル単元をそれぞれ設定し、導入「どんな学習がはじまるかな」では、身近な題材から算数の問題を発見し、単元末では活用問題を通して「何ができるようになったか」を実感できるように工夫されている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の前半で見いだした数学的な見方・考え方が「つながるミカタ」で顕在化されている。数学的な見方・考え方を理解して活用することで働きを実感することができるように工夫されている。 ○単元導入では、身近な題材から算数の問題を発見する場が設定されている。単元末「学んだことを使おう」や学年末「算数を使って考えよう」では、算数の学習と日常の場面をつなげて「わかる・できる」から「使える」学力に高めるよう工夫されている。 ○問題解決過程を振り返り、新たな問いを「だったら!？」の吹き出しで示すことで、数学的活動が連続して展開できるように工夫されている。 ○巻頭に、前学年までに使ってきた「算数のミカタ」と「算数の考え方」が記載されている。また、対話を通して数学的な見方・考え方を伝え合い、学び合う構成になっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○紙の強度を維持しながら、軽量の紙を使い、抗菌加工で、アレルギー対応がされている。 ○言葉遣いや服の色など、固定的なイメージで性を区別しないように配慮されている。 ○まとめアニメーションや作図手順、操作を伴った試行錯誤可能な教材のQRコードが掲載されている。また、プログラミング的思考について取り組めるページが設けられている。 ○2年生以上の学年に、数学的活動に使う資料が設けられており、切り取り用教具には、ミシン目が入っている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文節改行にすることで読み取りやすく、問題解決に重点を置けるように配慮されている。 ○公式、算数の用語、重要事項などは囲みや色付けで強調されている。 ○文章は平易で簡潔、かつ理解しやすいように配慮されている。 ○UD デジタル教科書体を採用し、紙でもデジタル画面でも見やすいように工夫されている。 ○色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーUD デザインに配慮されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○見いだした数学的な見方・考え方を顕在化して単元末で活用するとともに、巻末「学びのマップ」で、学年を超えて既習事項を振り返ることができるようにするなど、学びのつながり・深まりを実感できる構成になっている。 ○児童の問いを重視し、「はてな?→なるほど!→だったら!？」で学びを進め、問題発見力・問題解決力・問題追求力を育てるよう構成されている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">わくわく 算数</h1>	6 1 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">啓林館</div>
内 容	<p> ＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○巻頭に前学年の学習における数学的な見方・考え方を整理して掲載し、本学年の学習に生かすことができるように工夫されている。巻末に、基本問題と挑戦問題を掲載し、個に応じた学びに対応できるようになっている。学びのつながりを感じながら進められるよう、巻頭の「もくじ」や巻末の「学びをつなげよう」で既習事項とのつながりが示されている。 </p> <p> ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○問題解決の中で、分かったことを表現したり、よりよい方法を考えたりする活動が例示されている。また、既習事項を生かす場面では、見通しを立てたり、根拠をもって考えを進めたりする様子が例示されている。思考力、判断力、表現力等を日常の生活に生かし、伸ばしていくことができるよう「学びをいかそう」のコーナーを設けている。 </p> <p> ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○児童が興味・関心をもって学習に向かうことができるよう、身の回りの事柄や既習事項から学習が展開されている。また、児童の問いから学びが始まるようにするとともに、単元末では、学習全体を振り返って児童自らが大切だと感じたことを生かす活動が例示されている。学び続けようとする態度を育むため、「学びをいかそう」では日常の場面で算数を活用する課題が取り上げられている。 </p> <p> ＜数学的活動を充実させるための工夫＞ ○数学的活動の過程で児童が働かせる数学的な見方・考え方が紙面上に可視化されている。大切だと思ったことを明文化することで、児童自身が数学的な見方・考え方を価値付けることができるように工夫されている。 </p> <p> ○単元の初めには、日常生活場面の諸問題を取り上げ、算数との関わりを実感しながら学習を進め、問題を解決できるように工夫されている。「学びをいかそう」では日常の場面で算数を活用する課題を取り上げ、算数の有用性を感じるような問題を設けている。 </p> <p> ○児童の問いや気付きを「めばえ」として提示することで、自ら課題を発見し、新たな数学的活動ができるように工夫されている。 </p> <p> ○巻頭の「学習の進め方」において、「みんなで話し合おう」の場面が設定されている。また、他者に説明する際に使う「算数で使う言葉」の話型が記載されている。 </p>	
資 料	<p> ○用紙には、軽くて印刷が鮮明な再生紙を採用し、作業がしやすい製本となっている。 </p> <p> ○写真やイラストにおいて性別・国籍などで役割を固定化しないように工夫されている。 </p> <p> ○自学で取り組める QR コードが教科書紙面に掲載されている。また、プログラミング的思考について取り組めるページが設けられている。 </p> <p> ○学習において、数学的活動に使う資料が設けられており、切り取り用教具には、ミシン目が入っている。 </p>	
表記・表現	<p> ○全学年、文章を文節で改行することで、文意を捉えやすいように工夫されている。 </p> <p> ○新しい用語や記号、単位などは太字で書かれ、ルビがふられている。 </p> <p> ○課題やめあてはマークで強調し、定義や公式等は囲みや色付けで強調されている。 </p> <p> ○UD フォントを採用し、個人差を問わず伝わるように配慮されている。 </p> <p> ○配色は色覚の特性によらず学びやすいように MUD 協会の検証を受けている。 </p>	
総 括	<p> ○価値付けたい数学的な見方・考え方を強調したり、学び合いで深めたいポイントを可視化したりするとともに、学びのつながりを重視することで、数学的な見方・考え方を軸とした「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように工夫されている。 </p> <p> ○既習事項を確認して新しい学習へと向かうスパイラルの構成で学びやすくし、「練習」や「復習」のコーナーを設け、確かな理解の定着が図れるように工夫されている。 </p>	

書名 項目	<h1>小学算数</h1>	1 1 6 日 文
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <p>○児童が主体的に学習を進めることができるように、各時間に「めあて」と「まとめ」を明示し、学習の流れを分かりやすくする工夫がされている。また、巻末「算数マイトライ」では、習得・活用・探究を意識した教材を掲載し、習熟に応じた自学自習が可能になるよう工夫されている。単元末に「間違いやすい問題」を設け、つまずきやすい内容への対応が工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○単元内に「見方・考え方」を提示し、数学的に思考・判断・表現する力が育つように工夫されている。また、児童の発言などを用いて、問題解決の方法の見通しを立てたり、結果の見積もりを行ったりしながら展開するよう工夫されている。また、複数の単元や領域を結びつけた内容を用いて、理由や方法などを説明する問題が扱われている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○「自分でみんなで」では、問題解決の過程で自分の考えを表現したり、他者と協働して取り組んだりする場面を提示し、児童による主体的な算数の学びを実現できるように工夫されている。また、「使ってみよう」では作業的・体験的な活動や、学習したことを実際場面に活用する活動の充実を図るとともに、「算数ジャンプ」では探究的な問題を取り上げ、算数の楽しさやよさを感じることができるよう工夫されている。</p> <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <p>○単元アプローチで日常の事象や既習事項について考察しながら単元の導入を行うように工夫されている。実際場面に活用する経験を得ることで、数学的活動の楽しさやよさを感じられるように工夫されている。</p> <p>○各単元の初めに、児童の興味や好奇心に働きかける題材を取り入れることで、身近に算数を感じながら日常生活と算数の関連を図って解決できるように工夫されている。「使ってみよう」を設定し、学習内容を日常生活に生かす活動が取り入れられている。</p> <p>○既習の学習内容との相違点や疑問を吹き出しで示すことで、数学的活動のつながりを意識して問題解決できるように工夫されている。</p> <p>○巻頭の「学び方」の説明に「学び合おう」と明記されており、話し合いを促すよう工夫されている。巻末には、「算数で使いたい見方・考え方」が一覧で示されている。</p>	
資 料	<p>○B5判で、軽量化した再生紙を使用し、表紙は表面加工され、耐水性に配慮されている。</p> <p>○男子、女子などの性による服装や役割の固定化がないように配慮されている。</p> <p>○理解を深めるための動画・アニメーションなどのQRコードが掲載されている。また、プログラミング的思考について取り組めるページが設けられている。</p> <p>○全学年に数学的活動に使う資料が設けられており、切り取り用教具には、ミシン目が入っている。</p>	
表記・表現	<p>○全学年、文章を文節で改行することで、文意を捉えやすいように工夫されている。</p> <p>○当該学年以上の漢字には、ページ初出ごとにルビがふられている。</p> <p>○図形に使う色数を抑えたり、グラフの色を見分けやすくしたりするよう配慮されている。</p> <p>○教科書体・ゴシック体のUDフォントを採用し、視認性に配慮されている。</p> <p>○カラーUDの観点から図形に使う色を抑える等の配慮がされている。</p>	
総 括	<p>○ページの側注に学習のステップを示したり、巻末の「学び方ガイド」によって算数の学び方を示したり、筋道立てて考えるための着眼点になる「見方・考え方」を配置したりするなど、主体的・対話的で深い学びの実現につながる構成になっている。</p> <p>○「学習をたしかに」を単元末に設け、児童のつまずきや数学的な見方・考え方の成長を意識した構成になっている。</p>	

算数科 調査資料2

○分量について

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	日文
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	174	182	214	190	196	198
	2年	252	251	316	286	276	308
	3年	280	271	330	310	282	324
	4年	308	295	350	358	298	346
	5年	296	293	364	314	284	330
	6年	270	273	316	292	274	330
	2 巻末資料、付録等のページ数	1年	5	8	35	6	15
2年		41	26	40	45	39	75
3年		48	23	47	48	43	70
4年		51	31	55	75	48	73
5年		44	30	59	61	35	71
6年		74	62	43	81	65	97

○領域別教材数等について

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	日文	
1 総題材数	1年	18	21	18	18	26	20	
	2年	17	17	21	18	17	17	
	3年	20	19	19	19	22	18	
	4年	16	16	23	16	20	18	
	5年	19	19	20	16	18	17	
	6年	13	13	15	12	13	14	
2 領域別教材数	A 数と計算	1年	10	13	11	12	18	13
		2年	10	10	12	11	10	10
		3年	14	13	13	13	16	12
		4年	9	9	14	9	11	11
		5年	8	7	7	6	5	7
		6年	4	4	6	4	4	5
	B 図形	1年	2	2	2	3	3	2
		2年	2	2	2	2	2	2
		3年	2	2	2	2	2	2
		4年	4	4	4	3	4	4
		5年	6	6	6	5	5	5
		6年	5	5	4	4	5	5
	C 測定 変化と関係	1年	5	5	3	2	4	4
		2年	4	4	5	4	4	4
		3年	3	3	2	3	3	3
		4年	2	2	2	2	2	2
		5年	3	4	4	3	6	3
		6年	2	2	2	2	2	2
	D データの活用	1年	1	1	2	1	1	1
		2年	1	1	2	1	1	1
		3年	1	1	2	1	1	1
		4年	1	1	3	2	3	1
		5年	2	2	3	2	2	2
		6年	2	2	3	2	2	2

○その他

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	日文
発展させたり、様々な場面で活用させたりするための課題の数 ※ 問題場面のまとまりをもって1つとカウントする	1年	9	8	15	17	11	11
	2年	19	21	17	19	32	23
	3年	25	31	17	24	29	29
	4年	26	31	23	29	29	28
	5年	32	38	22	26	26	29
	6年	28	41	23	21	25	20
QRコードの数	1年	33	91	69	9	79	78
	2年	121	145	114	65	139	160
	3年	156	171	105	101	142	187
	4年	166	159	89	145	139	179
	5年	170	183	95	113	132	164
	6年	212	158	60	87	86	123